

2025年4月

# CWS JAPAN NEWSLETTER NO.103

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、  
ご理解をいただき、ありがとうございます

## ミャンマー大地震 被災者支援

2025年3月28日にミャンマー中部で発生したマグニチュード7.7の地震により、ミャンマー全土およびその周辺国に大きな被害が生じています。しかし、政情が不安定な地域の被害状況が正確に把握できていないなど、まだその全容は明らかになっていません。4月28日現在で死者3800人を超え、家を失った方々は20万人以上、被災地域の人口は約2,000万人にも上ります。ミャンマー政府は、サガイン、マンダレー、マグウェ、バゴの各地域、シャン州南部およびネピドー連邦直轄地に非常事態宣言を発動し、広く国際社会への支援を訴えています。

CWS Japanは発災直後から現地で活動する関係機関・団体から情報を収集し、連携した支援に向けた調整を開始しています。CWS Japanが理事長を務めるアジア防災・災害救援ネットワーク(ADRRN)のメンバーであるMERCY Malaysiaは、発災前から現地で支援活動を実施していましたが、3月30日よりマンダレー地域の地震被災地で調査と医療相談を実施しています。4月4日および5日には緊急支援物資（乾燥食料、衛生用品、経口補水塩、日用品、バックパック、蚊帳や防水シートなど）を、被災地域の4つの場所で合計1,000世帯に配布しました。加えて4月5日には、移動診療所の運営を開始しました。チームは医師2名と看護師・医療助手3名で構成され、4月6日までに119人の被災者が医療支援を受けました。主な症状は、地震から逃れる際に負ったケガや外傷、筋骨格系の痛み、

火傷、慢性の非感染性疾患、皮膚感染症などです。しかし、多くの被災者が心的外傷後ストレス障害（PTSD）の症状を示していることがわかってきました。フラッシュバック、悪夢、不安感、絶望感、睡眠障害などの症状がみられます。このニーズに対応するため、精神保健カウンセラー2名を緊急で採用・派遣するべく取り組んでいます。今後は、急速に悪化する衛生状況に起因する感染症の発生にも注意深くモニタリングする必要があります。

CWS Japanは、現地の人々が中心となった支援が迅速かつ効率的に届けられるように、引き続き関係団体との連携をしながらの支援を進めてまいります。皆様の温かい支援をよろしくお願いいたします。



2025年4月1日 現地の様子 (Photo: MERCY Malaysia)

**プロジェクト概要**  
**ご支援はこちら**

# NGOのアドミ (バックオフィス)とは、 どんなお仕事？ <前編>

皆さん、こんにちは。コミュニケーション担当の一色です。

「NGO職員の仕事」と聞くと、海外で現地パートナーと一緒に社会課題の解決に向けて活動することを思い浮かべる方も多いかと思うのですが、「NGOのアドミ職員の仕事」と聞くとどうでしょうか。あまり馴染みがない方もいらっしゃるかもしれません。

今回は、アドミン・ファイナンスマネージャーの高松さんに、アドミのお仕事についてお話を伺いました。

## 【用語についての補足】

アドミ：

Administration (アドミニストレーション)の略。総務、人事、経理などの業務を含み、「バックオフィス」とも言われる。

アドミン：

上記の役割を担う、役職名の一部として用いています。

## ー アドミの業務内容について教えてください。

アドミとは、会計・税務（振込・送金、経費精算、決算、納税など）、労務（給与、社会保険など）、総務（届出、登記、備品・アプリなど）といった管理業務と言われるもので、一般の企業や団体にも同じ役割があると思います。

NPO法人ならではのものとしては、寄付金をいただいていること、NPO会計基準での処理、毎年所轄庁（CWS Japanの場合は、東京都）に事業報告書などを提出することなどが挙げられます。CWS Japanは国際協力事業が多いことから、パキスタン、フィリピン、インドネシア、インド、イギリスなど海外との送金が多いことも特徴です。



NGOのアドミ(バックオフィス)とは、  
どんなお仕事？ <前編>



## ー 今までのお仕事で、印象的な出来事がありますか？

新型コロナウイルスはとても大きな出来事だったと思います。出社・対面での仕事が当たり前だったのが、テレワーク・オンライン会議が常態になりました。いろいろなアドミ業務をデジタル化できるように、外部委託も含めて進めていますが、世の中の制度や仕組みのデジタル移行が進んでいるからできる面もあり、新型コロナウイルスもその大きなきっかけになったのではと思います。

ほかにも数えきれないほどありますが、個別の業務では、2021年にアフガニスタンで政変が起きて活動資金の送金ができなくなったことです。多額の資金が相手に届かずに途中で戻されることが繰り返されて大変でした。最近以前のように送金できるようになりほっとしています。

## ー 高松さんは民間企業でのご経験もありますが、NGO業界で働こうと思ったきっかけを教えてください。

子どものころから海外に興味があり、ニュースなどを見ているうちに国際協力に携わりたいと思いはじめました。「社会人経験を積みつつ大学院進学資金も貯められれば」と新卒で民間企業に就職しました。わずか3年ほどでしたが、社会のいろいろなことや自分自身のことなども知ることができてとても貴重な経験でした。

その後、どの分野・地域の国際協力にどう関わるかを実際に働きながら絞ろうと、ケニアのスラムにおける保健事業を見学させてもらったNGOに入りました。当初NGOに限定せずに海外の現場で働くことをイメージしていたので、アドミの仕事をしていることは実は予想外の出来事なのですが、いろいろな経験を

経て、活動・事業の土台になる日本での管理業務に関心が移り、今に至っています。

## 一どのような人が、NGOのアドミ職員に向いていると思いますか？

アドミ業務自体は、NGOも一般の法人・団体も関係する法律などはほぼ同じなので、向き・不向きや求められる能力も、その他の法人と同じく、活動・事業の内容・地域・規模によって変わってきます。

NGOのアドミ職員としては、そのNGOの目的がたとえば災害などに対する緊急支援なのか、ある地域・分野で長期間継続的に活動するのかで、必要な心構えは変わるとは思います。どの分野においても黒子のように目立たないけれど団体の力になりたいという気持ちが必要だと思います。

最近では、NGOでもデジタル化が必要で、AI活用の動向も知っておいた方がよく、従来のやり方にとらわれることなく、新たなツールを調べたり、試したりといった柔軟な姿勢も大事だと思います。



アジア地域のCWS職員がジャカルタに集合した時の写真。右から2人目が高松さん。©CWS Japan

## 編集後記

「活動・事業の土台になる日本での管理業務」という言葉があったように、アドミの業務をしっかりと担ってくださる方がいるからこそ、チームの基盤が安定し、チームのメンバーが安心して多種多様なプロジェクトに取り組めるのだなと思いました。

「NGOのアドミとは、どんなお仕事？〈後編〉」では、アドミン・ファイナンスオフィサー・清川さんにお話を伺う予定です。さらにアドミというお仕事について理解を深めていけたらなと思います。

(文：コミュニケーション担当・  
一色あずさ)

 皆さまのご理解・ご支援を心よりお願い申し上げます。

継続的な  
寄付

今回のみ  
寄付

# コミュニティ・カフェのボランティアを通して 見たこと 興味の種を植え付ける

新宿区・大久保エリアで展開するコミュニティカフェ@大久保では、ボランティアの皆さんが活動を支えています。今回は、企業ボランティアの茅根（ちのね）みつきさんに、コミュニティカフェでの経験について寄稿していただきました。

コミュニティ・カフェでのボランティアをしていた茅根です。昨年の夏頃から約半年間、短い期間ではありましたが、発見の多い経験をさせていただきました。ボランティアを通しての気づきを共有させていただきます。

## 自己紹介

私は富士山の麓、静岡県で生まれ、幼い頃からピアノを学び、音楽大学へと進学しました。社会人になり、音楽からは一度離れ、営業、経営企画、広報を経て、直近では日本美術を扱う美術館に勤務していました。また、外国籍の小学生に日本語を教えるボランティアを行っています。趣味は各国の料理を食べることとカポエイラです。幼い頃は音楽を通して、そして現在はスポーツや食を通して、常に外国の文化を感じながら生活をしています。

## ボランティアの経験から見たこと チュニジアが他人事では なくなった瞬間

自分のこれからの生き方について漠然と考えていた中で、「会社の外で社会問題に関わるお手伝いをしたい」と思ったことがきっかけで、ボランティアに応募しました。もともと外国の文化が好きだったことからコミュニティ・カフェの活動内容に惹かれ、また仕事でのチラシ作成の経験が活動の力になれると思い、ときどきしながら応募したことを今でも覚えています。

チラシ作成のほかに、数回イベントに参加したのですが、特に思い出深いのは大久保まつりです。チュニジア料理のブースでお手伝いをしました。

キッチンでチュニジア人シェフが丹精込めて作ったチャパティとブリック。「これを食べて、どれだけの人がチュニジアに興味を持ってくれるかな」と”おいしい”以上の期待を込めて「チュニジアの～」と声を張りながら販売しました。（ここでの味が忘れられず、後日、見様見真似でブリックを家で作り、一日中食べました。笑）

そんな私も、チュニジアはどんな食文化で、どんな人が暮らしていて、なんの言語を話すのか知りませんでした。しかし、このちょっとした関わりから、チュニジアが自分の中で他人事ではなくなるのです。

コミュニティ・カフェのイベントは、さまざまなタイプのものがありますが、このような「興味の種」をいろいろな人に植え付けていくようなものだと感じています。それが、この先何につながるかはわかりません。でも、いつか誰かを助けることに繋がるかもしれません。

私はイベントのチラシを作成する過程で、無知ゆえに知らなかった社会課題を目の当たりにすることになりました。さまざまな事情を抱えた外国人が日本には多くいて、そんな彼らにこれでもかというほど寄り添う牧職員やそのほかの皆さんを見て、想像以上に移民・難民の当事者が置かれる環境が過酷だと思いました。またそれと同時に、コミュニティ・カフェが行なっていることの尊さを感じました。社会問題に向き合うとは、こういうことなのだと、自分の認識の甘さを突きつけられたような気分でした。



大久保まつりにて、チュニジアチームと集合写真。  
前列が筆者。©CWS Japan

## コミュニティ・カフェでの活動を経て東ティモールでのボランティア活動への挑戦

「社会問題に関わりたい」という気持ちは変わらず、今年4月中旬から東ティモールで日本語や日本文化を教えるボランティアに挑戦します。現地の学生は、将来日本での技能実習生を目指す方も多いと聞きます。海外旅行は好きだけれど、異国の地で暮らしたことはなく、また言語にも自信がなく、行くことが決まった後、変に気負ってしまったところがありました。しかし、コミュニティ・カフェの皆さんと関わったおかげで、このボランティアは決して特別なものではなく、同じアジア圏の人のために、日本人としてやって当たり前のことをするだけなのだ、今では冷静に捉えています。

現地では、日本語教育にとどまらず、今まで私が学んできたことや好きなこと、できることを通して、文化の違う人に寄り添い、関わる人が少しでも笑顔になれるような、そんな活動をしてきたいと思っています！

(文：コミュニティ・カフェ  
企業ボランティア 茅根みつき)

## さまざまなSNSで情報をお届けしています

CWS Japanでは各種SNSで、日ごろから情報をお届けしています。お好きな方法で最新情報をぜひチェックしてみてください

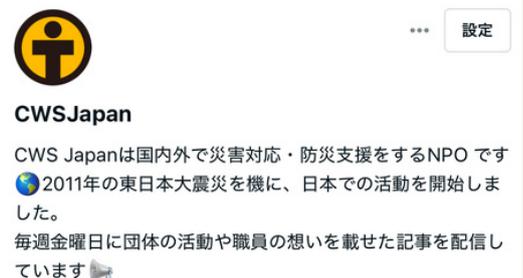


各種SNSは  
[ここをクリック](#) or  
QRコード読み込み

認定NPO法人CWS Japan @Japan\_CWS · 4月25日  
＜タンザニアカフェとスリランカカレー料理教室を開催＞今月のコミュニティ・カフェ@大久保 @commucafes2023 では、タンザニアやスリランカをテーマにした催しを行いました！4月のコミュニティ・カフェ@大久保のレポート記事を、お届けします



note.comから



# パキスタン農村地域の 防災力向上支援 災害リスクを軽減・ 把握したら、その次は？

こんにちは、五十嵐豪です。今回は、2024年3月に開始したパキスタンの農村地域の防災力向上支援事業について報告いたします。

▼前回の報告はこちらをご覧ください。



【事業進捗報告】

パキスタン

防災・災害対策には  
欠かせない  
ハザードマップ  
作成研修を実施

たった一人のためにも、世界をつなげたい

CWS JAPAN  
Church World Service

## 洪水と干ばつへの備え

この事業は主に二つの目的があります。一つは2022年に発生したパキスタン国土のおよそ3分の1を水没させるほどの大洪水からの復興支援。そして、もう一つは、繰り返し発生する災害に備えて地域の防災力を向上させることです。この地域を襲う主な災害とは、【洪水】と【干ばつ】です。まるで対極にあるような事象ですが、雨季に大雨や長雨になると洪水が発生しやすい一方で、雨季の降水量が少ないままに乾季になると干ばつが発生し、十分に農作物を育てることができません。つまり、そこで大切なのは水資源の適正な管理です。そのため、私たちの支援としてまずは、灌漑（かんがい）用水路の新設・改修および貯水池の増設を行っています。



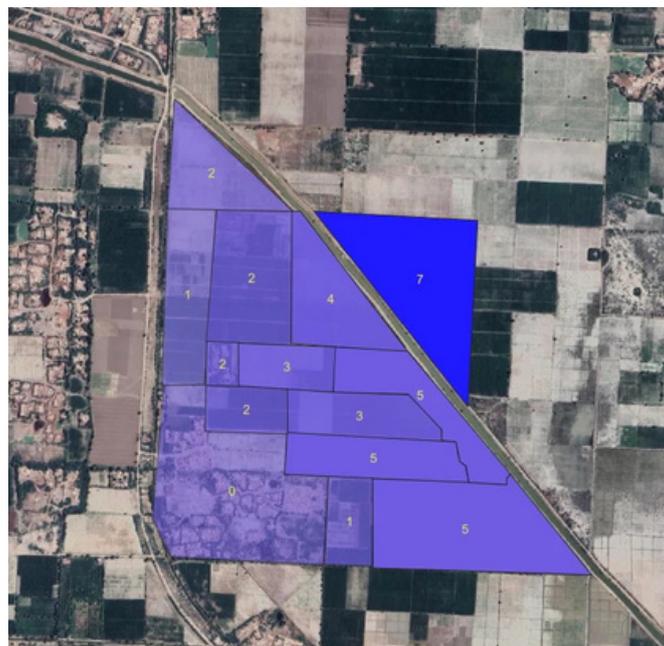
完成間近の灌漑用水路。できるだけ直線系のV字溝にすることで流水速度を早めることができるため、滞留物の沈殿が少なくなり、結果としてメンテナンスしやすく、越水のリスクも軽減できます。©CWS Japan



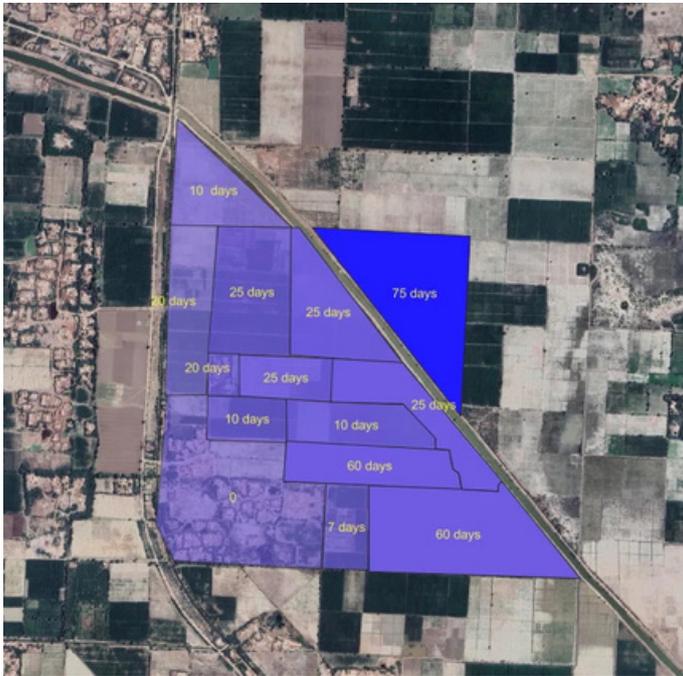
建設途中の貯水池。インダス川を源流とする運河の水を各村の用水路に取水できる期間には制限があります。水を貯めることができると、そうした取水期間に捉われることなく、より必要な時に効率的に水資源を利用することが可能になります。貯水池の水は畑だけでなく苗床の育成にも利用されます。©CWS Japan

## 地域が中心となる災害リスクの分析

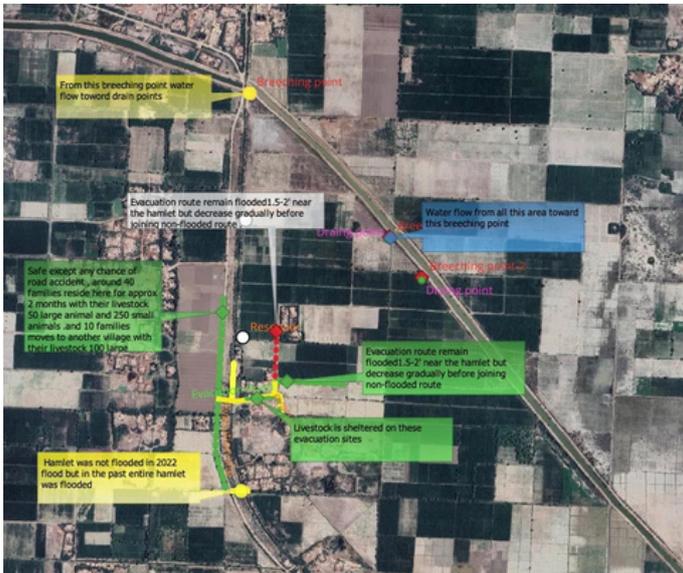
本事業では、建設物によるハード面の防災力強化だけでなく、住民自身の防災意識を高め、災害発生時により適切な避難行動を取れるようになることで、災害による影響を軽減できるようなソフト面での強化も目指しています。その第一歩となるのが、村のどの部分が洪水時に浸水しやすいか、またその深さや水が引くまでの期間を過去の記録・記憶を参考に可視化するハザードマップを作成することです。前回の報告ではこのハザードマップ作成に向けた研修の様子をお伝えしましたが、ついにこのハザードマップが完成しました。



2022年の洪水時の村の浸水域を示しています。数字は深さ（フィート）。



水が引くまでに掛かった日数を示しています。耕作地の中には2ヶ月以上も水が引かなかった部分もあります。



実際の災害発生時に住民がとった避難経路や避難場所を示しています。また避難経路におけるリスクも分析し、それぞれの箇所での潜在的リスクがあるかを記録しています。



完成したハザードマップ手にして現地の村で実地検証を行う様子。やはり最終的には現場で確認する必要があります。©CWS Japan

## リスク把握から、災害時の行動変容に繋ぐ

今回の研修では、村のどこに災害リスクがあるかということ特定し、可視化するところまでできました。今後は、このリスクにどのように対応するかを考えていかなければなりません。一言で「洪水」といっても浸水の深さや水が引くまでの期間に差があり、これを正しく理解することでそれぞれの住宅および耕作地でどれだけの災害に対する備えが必要かということが、わかってきます。こうした情報を基にして村単位での潜在的ニーズを把握し、また高齢者や障害者、子どもなど、災害時のリスクの高い住民がどこに住んでいるかという情報を反映しながら、実際の災害対応計画を、ここの村単位で作っていくという作業が必要になります。

また、こうしてできた対応計画は、作っただけでは「絵に描いた餅」になってしまいます。これをどのように住民に周知して、住民が理解して、いざという時に行動に移せるようになるか、わかりやすい防災マップや計画書の作成に加え、避難訓練等のシミュレーションなどを実施する必要があります。こうした取り組みを2025年以降は進めていきたいと考えています。

この支援は日本政府の外務省「日本NGO連携無償資金協力」に加え、皆さまの温かいご寄付に支えられて実施しています。今後とも引き続きの応援をお願いいたします。

(文：ディレクター 五十嵐豪)

# 「自分たちの手で街を守る」 アフガニスタンの 治水事業に取り組む 現地職員インタビュー

こんにちは！CWS Japanインターンの高田陽太です。

今回はCWS Japanが以前から取り組んでいるアフガニスタンでの治水事業に関して、先日現地の職員にオンラインでインタビューをし、事業の内容や難しさ、今後の展望について伺ってきました。

## アフガニスタンでCWSが取り組んでいること

CWS Japanは外務省の援助を受け、アフガニスタンのLaghman Provinceというところで治水事業を行っています。ここはKunar川の川沿いにあり、雨季の水害によって被害を受けてきました。この川に堤防を築き、水害を防ごうとする事業です。この堤防はすでに完成しており、街を水害から守っています。

▼これまでの取り組みについてはこちら



## 事業の展開

わたしはまず、この事業が順調に進んだのかを聞きました。土木工事といえば日本では工期が遅延し、何十年もかかってやっと完成するような印象があるからです。しかし聞いてみると、ほとんどスムーズに進んだとのことでした。

もちろん、比較的小規模な工事ということもあると思いますが、それでも順調な事業の背景には、丁寧に仕事を進めている姿が

あることがわかりました。明確な根拠を持って場所の選定や設計を行い、住民の方々に事業の目的を説明することなど、やるべきことをこなすことによって信頼を得ていました。反対する人はいたもののごく少数で、事業によってどのような良いことがあるかを丁寧に伝えることで解消したとのことでした。



石積護岸工の建設現場 ©CWSA

「コミュニティ」を大事に  
インタビュー中、何度も「コミュニティ」という言葉が登場しました。

それについて聞いてみると、やはり、何か物を作っても、それが自分たちのものだと思えなければ、作っただけで終わってしまう。作った後はメンテナンスも必要となってきますが、住民自身が日頃から見守ることで、何かあったときにはすぐに報告がなされる体制になっているとのことでした。

住民の中には、より専門的な知識を持っている人もいて、管理の体制がきちんと整えられているようです。



工事関係者と打ち合わせ中 ©CWSA

## インタビューから感じたこと

インタビューをしてみて感じたのは、政府が掲げている防災政策が不十分であることです。現状、水害によって被害が出ているのに、治水のためのガイドラインも十分に整備されていないため、新たな対策が進んでいかない。だから、CWSのようなNGOが、防災の知見を他国から持ってきて、事業を進めることに意味があるのだと気づきました。

その一方で、コミュニティを重視するように、地域の人々が主体的に防災に取り組む姿勢は、私たちも学ぶべきところがありそうです。自分のまちを人任せにせず、自分たちの手によって守っていくというあり方は、もっと日本でも取り入れられるべきなのかもしれません。

(文：インターン 高田陽太)



完成間近の防災インフラ施工 ©CWSA

## コミュニティ・カフェ@大久保 ボランティア募集中

コミュニティ・カフェ@大久保では、カフェの活動を一緒に支えるボランティアを募集しています。カフェのボランティア参加にご関心のある方は、カフェのSNSのDM（ダイレクト・メッセージ）にてお気軽にお問い合わせください。

**コミュニティ・カフェ@大久保とは？**  
コミュニティ・カフェ@大久保は、2023年4月に多様なヒト・文化が集まる新宿区の大久保にて、様々な人々が出会い、交流し、繋がることのできる地域の憩いの場として、オープンしました。  
この地域に集まる多様な人々と普段から知り合えるよう多文化・多世代交流の居場所として、ドリンクやパンを提供するだけでなく、料理・クラフト・音楽・アートなど様々な体験型イベントの他、多文化共生をテーマにした学び合いのワークショップを開催しています。

活動内容：カフェ運営・イベント企画、地域のお祭り出店サポートなど  
活動日時：第1・3水曜日 12:30-17:30

※これ以外の日程でも、サポートをお願いする可能性もあります。  
※フル参加できなくても大丈夫です！（途中参加・途中抜け可）

ご興味のある方、ご質問のある方は、ぜひお気軽に公式SNSのDMよりご連絡ください！  
ご連絡お待ちしております！！

Facebook / Instagram / X(旧Twitter)

コミュニティ・カフェ@大久保の各種SNSはこちら。  
[Facebook](#) / [Instagram](#) / [X\(旧Twitter\)](#)

# タンザニアカフェと スリランカカレー 料理教室を開催 4月のコミュニティ・ カフェ@大久保

皆さん、こんにちは！CWS Japanの五十嵐望美です。

新年度が始まり、新緑の季節になってきましたが、いかがお過ごしでしょうか？

今月のコミュニティ・カフェ@大久保では、タンザニアやスリランカをテーマにした催しを行いました！そんな今年度初回のコミュニティ・カフェ@大久保のレポート記事をお届けします。

## タンザニアの文化や言語を紹介したタンザニアカフェ

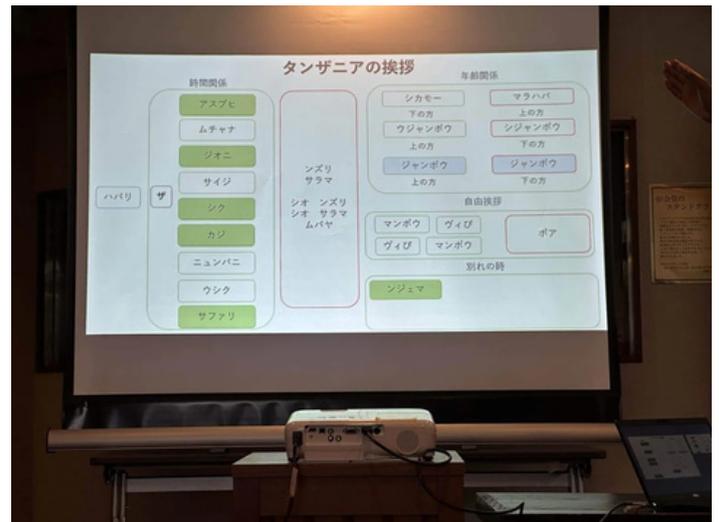
4月2日（水）のカフェでは、タンザニア出身でルーテル教会に通われているマイケルさんとトゥーラさんご夫妻を囲んで、タンザニアカフェを開催しました。

タンザニアについての紹介や、タンザニアの布（カンガとキテンゲ）の巻き方体験をリードしてくれました。



ゲストのマイケルさんとトゥーラさんご夫妻  
©CWS Japan

タンザニアのお話では、公用語であるスワヒリ語の成り立ちやスワヒリ語の時間の読み方、時間に合わせた挨拶の仕方、ことわざなどを丁寧にレクチャーしていただき、日本とは違うけれど似ている考え方もあったりなど、とても興味深い内容でした。



丁寧なスライド資料と説明で、タンザニアやスワヒリ語の構造についても教えてもらいました！  
©CWS Japan

また、鮮やかなアフリカプリントの布、カンガとキテンゲは、タンザニアの女性達が日常的に着用する布ですが、腰に巻いたり、頭に巻いたりとも100通り以上の使い方があるとも言われています。その巻き方の一部をトゥーラさんに教えていただきました。

2025/4/2 タンザニアカフェ










コミュニティ・カフェ@大久保

多文化・多国籍共生のまち大久保



当日はお二人に日本語指導された先生方も会場にお見えになり、ゲストの二人はやや緊張気味でしたが、来日後に初めて日本語を学んだとは思えないほど流暢な日本語で



クリスチャン（キリスト教徒）が教会に行く時の着方  
©CWS Japan



こちらはムスリマ（イスラム教徒の女性）の着方  
©CWS Japan



実際に参加者の皆さんにも巻き方・着方を体験していただきました！©CWS Japan

日本から遠く離れた国ではありますが、タンザニアについて知ることができます興味湧いた！という方や、いつか行ってみたい！という声も聞かれて、参加者の皆さんも楽しんでいただけた様子でした。

### スリランカの「モルディブ・フィッシュ」を使ったカレー料理教室

4月16日(水)のカフェでは、これまでの企画や地域のお祭りなどでも、さまざまな料理を度々振る舞っているスリランカ出身の仲間による「スリランカのかつおぶし『モルディブ・フィッシュ』の料理教室」を開催しました！

2025/4/16 スリランカのかつおぶし「モルディブ・フィッシュ」料理教室

コミュニティ・カフェ@大塚  
www.komuniti-cafe.com

はじめに参加者の皆さんも含めて全員で自己紹介をしていただいた中で、スリランカに渡航・滞在経験がある方やレシピを知りたくて参加しました…！！という方など、関心の高い雰囲気の中で料理教室がスタート。調理中も熱心にメモを取りながら、ともに調理を行っていただきました。

今回は「モルディブ・フィッシュ」というマグロを乾燥させて固くさせた食品が使われ、日本の鰹節よりもかみごたえのある噛めば噛むほど味がしみるものと、さまざまなスパイスやココナッツミルクを使ったスパシーなルーを使ったスリランカならではのカレーの2種類を作りました。



今回の料理で使った「モルディブ・フィッシュ」  
©CWS Japan

また、ゲストの仲間はカフェ以外の場でもさまざまなイベントで出店して手作りのスリランカ料理を提供していて、今では実店舗も構えられるぐらいの料理器具が揃っているとのこと！今回も自前の大きな炊飯器や料理道具を持参して、慣れた手つきで手際よく調理を進めてくれました。現在に至るまでにはさまざまな困難や道のりがあり、調理作業の間や完成したカレーを食べている時に、そのエピソードや皆さんからの質問にも答えてお話しする場面もありました。



完成したカレーをいただきながら、ゲストの仲間のお話も聞きました©CWS Japan

今回も満員御礼・大好評となったスリランカ料理教室ですが、他にも5月10日（土）に開催される難民・移民フェスなど、毎週出店の機会があるということなので、食べてみたい！という方はアーユボーワンさんのアカウントをぜひチェックしてみてください。また、コミュニティ・カフェでは5月17日（土）に開催される五月まつりにも他の仲間たちとともに出店予定ですので、ぜひこちらもお楽しみに。

アーユボーワンさんのSNSアカウントはこちら  
[Facebook](#) / [Instagram](#) / [X\(旧Twitter\)](#)

### 5月のカフェ企画のお知らせ

5月のカフェは、大久保地域センターで開催される五月まつりへの出店のため、カフェでは第1水曜日・5月7日のみの営業となります。

日時：毎月第1・3水曜日 13:00-17:00  
場所：日本福音ルーテル東京教会  
東京都新宿区大久保1-14-14（JR新大久保駅から徒歩7分）

**5月の予定**

第3水曜日（5/21）はお休みです！

営業日	イベント企画
5月7日（水） 14:00-16:00	大人のための癒しの塗り絵 （参加費無料・事前申込不要）
5月17日（土） 10:00-15:00	五月まつり@大久保地域センター 「ワールド・パズル」出店

※イベントの内容・日程は事前のアナウンスなく変更する可能性がありますのでご了承ください。

最新情報はSNSでお知らせしています！

QRコード：Facebook, Instagram, X

GW明けの7日(水)には、「大人のための癒しの塗り絵」を開催します。

さまざまなイラストの塗り絵やカラフルな色鉛筆も用意していますので、無心に塗り絵を楽しみたいという方はぜひ気軽にお立ち寄りください。

また、5月17日(土)に開催される五月まつりへの出店に関する情報は、追ってSNSで告知いたします。この日は大久保地域センターが会場になりますので、SNSでの情報を確認しつつ、ぜひ足をお運びください。



コミュニティ・カフェ@大久保  
多文化 多世代共生のれいの大の里  
大人のための癒しの塗り絵

2025/5/7 (Wed) 14:00~16:00  
at 日本福音ルーテル東京教会  
東京都新宿区大久保1-14-14  
(JR新大久保駅から徒歩5分)

参加費無料・事前申込不要

いろんな塗り絵を楽しみながら、ゆったり過ごしませんか？

公益財団法人 ウェスレー財団  
Wesley Zaidan

主催：コミュニティ・カフェ@大久保  
問い合わせ：CWS Japan 牧 (☎03-6457-6840 ✉public@cwsjapan.jp)

(文：プロジェクト・オフィサー  
五十嵐望美)

特定非営利活動法人CWS Japan  
〒169-0051  
東京都新宿区西早稲田2-3-18  
日本キリスト教会館25号室

メールアドレス：  
public@cwsjapan.jp  
電話：  
03-6457-6840



[CWSJapan](#)



[@Japan\\_CWS](#)



[cws\\_japan](#)